子どもの成長に感謝し、幸せを願って

秋晴れのなか、長い石段を上ると華やかな衣装に身を包んだ子どもたちの笑顔が見えてきました。11月11日、大宮大神で子どもの成長を祝う行事の七五三合同祈願祭が行われ、13名が七五三を迎えました。ご祈願が始まると、神主から祝詞、お祓いを受け、神主ら大人たちを真似て玉串奉奠をすることができました。子どもたちを見守るご家族の心配する表情や上手にできるとホッとする表情も見え、すてきな日となりました。



牛尾の蛇祭り

11月11日、大きな掛け声と囃子の音色とともに、稲わらで作られた大蛇を担ぐ男性たちが当番家から勢いよく出てきました。特徴的な化粧をした担ぎ手たちは蛇行しながら練り歩き、白幡神社に到着するとより激しく動きます。その後は拝殿に置かれ、境内では墨が付いた大根を持つ童子が見物に来ているお客さんたちに墨をつけようと走り回ります。そして、最後に大蛇はしめ縄の代わりに鳥居に巻き付けられ、地域の皆さんを見守ってくれることでしょう。





交流館の愛称は「たこらぼ」

11月19日、多古町魅力発信交流館の愛称募集の表彰式が行われました。町内外から737作品もの応募があり、最優秀賞を受賞したのは作詞家の保岡直樹さん(東京都在住)です。千葉県内の小学校歌を作詞したこともあり、キャッチコピーの募集があれば、自分の言葉を磨くために応募をしているという安岡さん。「たこらば」には、「コラボレーション(協力・連携・協働)」の意味が込められており、シンプルで柔らかく温もりのある愛称が生まれました。

意識を高めて交通安全

11月25日、防犯と交通安全への意識を高めるため「第2回防犯・交通安全音楽フェスタ」がコミュニティプラザ文化ホールで開催されました。警察からは、防犯・交通安全に関する日頃の心構えについて講話がされ、参加者は熱心に聞き入っていました。また、プラザ駐車場には、白バイやパトカーが展示され、会場では、多

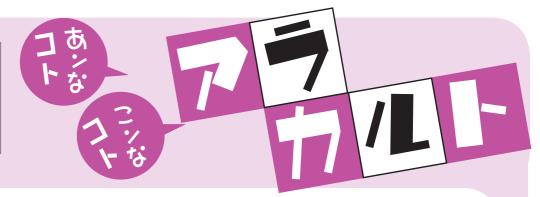




町の出来事や頑張っている皆さんを紹介するアラカルトコーナー。 このコーナーでは、皆さんからの情報をお待ちしています。 〒289-2292

多古町役場企画空港政策課広報係

☎76-5409



ボッチャでつなぐ生徒の輪

11月21日、飯高特別支援学校中学部と 高等部の生徒8名が、多古中特別支援学級の 生徒 4 名とパラリンピック競技のボッチャで 交流をしました。飯高特別支援学校では、保 健体育の学習で日頃からボッチャに取り組ん でいるそうで、この日は混成チームで2つ のグループに分かれて対戦を楽しみ、高等部 の生徒がチームリーダーとして中学生にアド バイスをしながら交流を深めました。山下鷹 駿さん(多古中3年生)は「コートが広くて少 し難しかった。改めてみんなと交流できて楽 しかった」、脇田鉄矢さん(高等部3年生)は 「ボッチャは、みんなと協力したりグループ 内で話し合ったりと交流できるのが良いとこ ろ。卒業してもボッチャを続けたい」と笑顔 で話してくれました。

また、ボッチャの後は、千葉県特別支援学校清掃検定に出場している高等部の生徒たちが中学生たちに窓そうじの技能を披露し、両校にとって有意義な時間となりました。







『認知症』ってなんだろう?

11月26日、久賀小5年生を対象に認知症サポーター養成講座が行われ、地域包括支援センター職員による話や寸劇を通して、認知症の正しい知識や対応の仕方を学びました。最後に感想を聞かれると「おばあちゃんたちに悩みがあったら一緒に考えてあげたい」「冷たくされたらおじいちゃんたちも悲しくなるから優しく接したい」などの発表がありました。認知症に

なった方が、 地域で安心と うにするように うたせるよう ちももるよう なっても ですね。



若いときから骨の大切さを考える

11月26日、町と千葉県診療放射線技師会が骨粗しょう症検診について知ってもらおうと、多古高3年生と希望者を対象に検診が行われました。初めて骨密度を測定したという北崎彩乃さんと大久保魁斗さんは「年を取るにつれて骨が弱くなると聞いて、結果は問題なかったけど今後は3食しっかりと食べて乳製品もとっていきたい」「カルシウムを気にして生活していなかったので、数値が高くてびっくりした。これからも維持したい」と話してくれました。

また、フルヤ乳業から はカルシウムと鉄分の 強化のためにとヨーグ ルトを提供いただき、 参加した高校生に配付 されました。



29 ······ 広報**たこ** 2019.1